



# IXIL リビング建材 グランドラインラフィスクローゼット折れ戸 ライン枠 取付け説明書

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

## ■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

**▲注意** …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

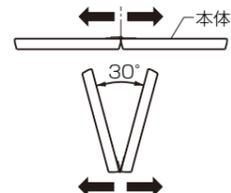
## ▲注意

- 吊込み後、本体をゆすって外れないことを確認してください。吊込みが完了していないと、本体が落下するおそれがあります。
- 2人以上で作業してください。1人作業では商品の転倒などによりケガや躯体、商品の傷付きが発生するおそれがあります。

## ■本体の開閉操作上のお願い

本体を開閉する際は、下記事項を守って操作してください。

- 本体をフラットのまま移動させます。
- 30°の角度で本体が一時固定するようになっていますので、この状態で移動させます。  
※角度が30°未満の状態では移動させないでください。この場合、動きがギクシャクしたり下部のローラーがレールから外れたりする場合があります。



## ■取付け上のお願い

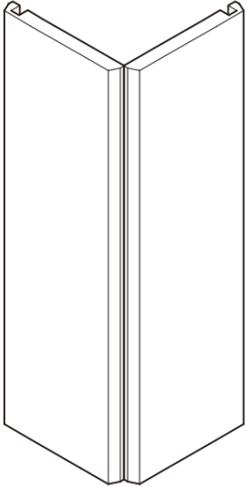
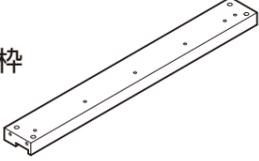
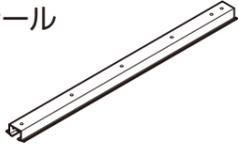
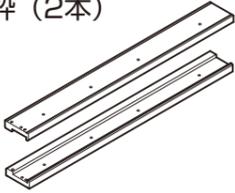
- 本製品の上枠は天井のふところに納まります。枠を躯体に取付けた後に、天井ボードの施工を行ってください。
- 本製品は床材の上に納まる仕様です。
- 縦枠下端はカットしないでください。本体を吊込めなくなります。
- 本製品は上吊方式のため、梁又はまぐさで重量を受けます。本体重量に耐える梁、又はまぐさをご使用ください。上枠およびレールの垂れ下がりの原因になります。  
本体重量目安：30kg/枚
- 本製品は天井ボードを上枠レールに突き当てて納める仕様です。レールが変形するほどの強い力で突き当てないでください。扉開閉不良の原因につながります。
- 本製品は本体が天井高さで納まります。搬入や吊込み時など天井面、壁面にキズを付けないよう注意してください。
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- かい木は躯体(柱、胴縁含む)と同じ幅のものを使用してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂れ下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締め込んでください。但し、叩き込まないようにして下さい。保持力低下の原因となります。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けしてください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 造作材・建具枠の下地材及び、かい木には、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損の原因になります。
- 床材とツバ付薄沓ずりのすき間は5mm以内にしてください。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあけないでください。ツバ材の取付けは、ハンマーなどで強くたたき込まないでください。
- 枠は倒れ、傾き、たいこ、つぶみ、ねじれがないように取付けてください。片引枠の場合は、中縦枠の施工にご注意ください。吊込み後、本体とのすき間・干渉の原因になります。
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 梁又はまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いため直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けしてください。
- 鴨居取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。
- フラット下レールを固定する床(下地)は、段差やすき間がないように仕上げた後からレールを固定してください。フラット下レールや埋込下枠を取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。フラット下レール/埋込下枠が変形し、本体開閉不具合の原因となります。
- 製品取付の際の建具養生時に表面シートにテープ(ガムテープ、養生テープ、マスキングテープなど)を直貼りしないでください。テープを剥がす際、表面シートを傷めたり、テープの粘着剤が表面シートに付着したまま残ることがあります。
- 枠組立て前に鴨居のレールに吊車を挿入してください。吊車の入れ方を間違えると本体の吊込みおよび、建付け調整ができません。
- ガイドローラーを圧入する際は、樹脂部に当て木を使用してください。ガイドローラーの破損・変形により、開閉に支障がでるおそれがあります。
- 本体吊込みの際は、ガイドローラーが下レールに入っていることを確認し、ガイドローラーで枠や床面などにキズを付けないようにしてください。
- フリータイプの時に、本体を折った状態で向かい合わせになる本体それぞれに把手を取付けしないでください。把手同士が干渉してキズが付く原因となります。
- 本体の把手に重量物をぶらさげないでください。把手が壊れ落下するおそれがあります。
- 運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。

## ■本体保管上のお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。  
・直射日光の当たる場所・昼夜などで温度差の激しい場所・湿気の多い場所
- 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

■部品・部材の明細

■部材の明細

折れ戸本体	3方枠	下枠		クロス下地材
<p>●クローゼット本体</p> 	<p>●上枠</p>  <p>●上レール</p>  <p>●縦枠 (2本)</p> 	埋込下枠	フラット下レール	<p>●クロス下地材 (2本)</p> 
		 <p>●埋込下枠</p>	<p>または</p>  <p>●フラット下レール</p>	

■本体用部品

	ガイドローラー	ガイドローラー固定金具
W07	2	1
W12・16	4	2
W24	6	3

■把手セット (別売り)

	把手	把手取付けねじ (トラス小ねじM4×35)
W07	1	2
W12・16	2	4
W24	3	6

■3方枠用部品

	皿小ねじ M4×50 (枠組立て用)	トラスタッピンねじ φ4×60 (上枠躯体取付け用)	皿タッピンねじ φ4×50 頭部シート色塗装 (縦枠躯体取付け用)	ワンタッチ吊車	本体召合せ部品	本体召合せ部品 固定ねじ トラスタッピンねじ φ3.5×16	DNビス (皿木ねじ) φ3.8×50 (上枠仮止め用)
W07	4	4	8	2	—	—	3
W12・16	4	7	8	4	2	4	3
W24	4	9	8	6	4	8	3

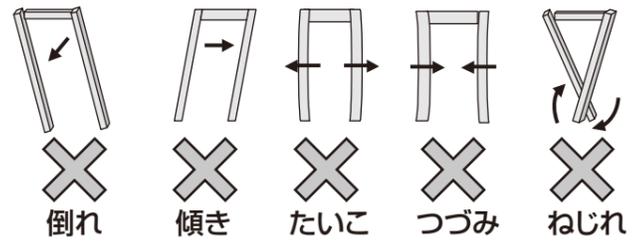
■下枠用部品

	皿タッピンねじφ4×18 (フラット下レール取付け用)	皿木ねじ φ3.5×20 (埋込下枠取付け用)	埋込下枠 端部ピース
フラット下レールW07~W16	7	—	—
フラット下レールW24	13	—	—
埋込下枠W07~W16	—	3	2
埋込下枠W24	—	5	2

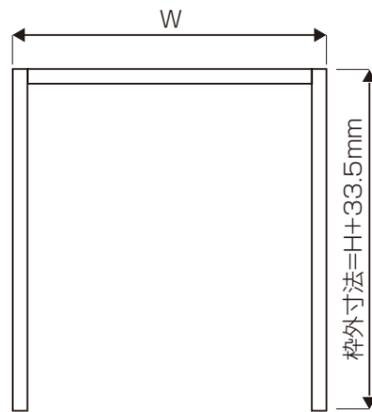
## ■開口部の作り方

- ①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。
- ②水準器・曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。

※柱、床、まぐさの水平・垂直ができていないと、枠が下図のようになり、不具合現象につながります。

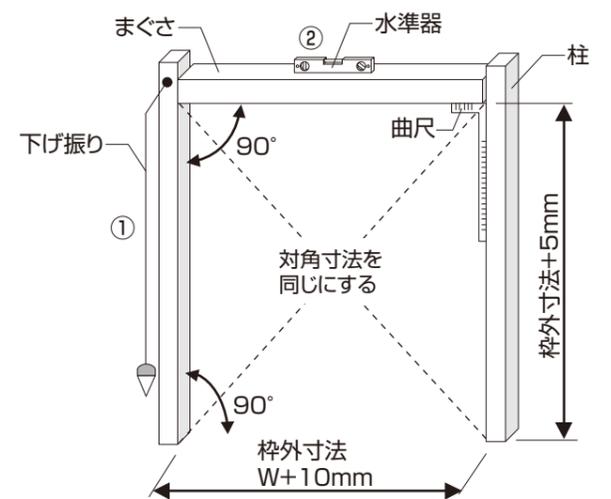


### ●製品寸法 (天井ボード9.5mm厚の場合)



※天井ボード12.5mm厚の場合、枠外寸法=H+36.5mmとなります。

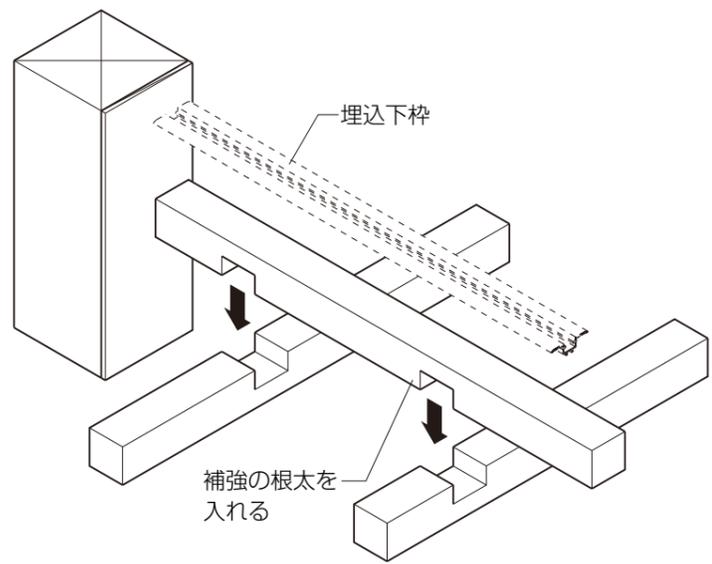
### ●開口寸法



## ■床の張り方

### 1 下枠下地の確認

- 枠材は捨て張り合板の上に施工するか、根太張り工法の場合は右図のように根太を入れて補強してから施工してください。下枠の破損や本体開閉不具合の原因となります。

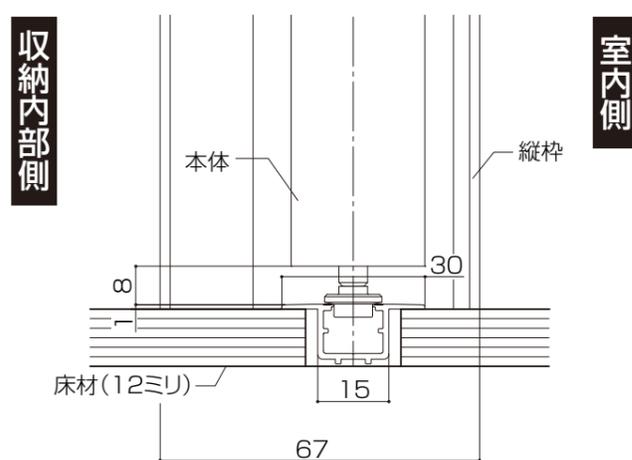
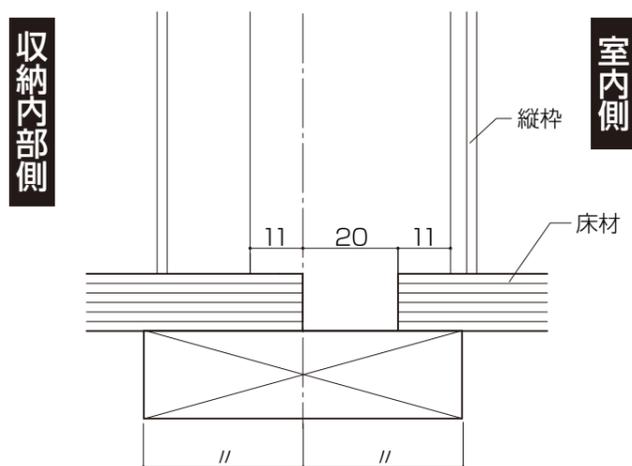


### 2 床張り位置

#### ■床先張り(枠後付け)

#### 【埋込下枠を使用する場合】

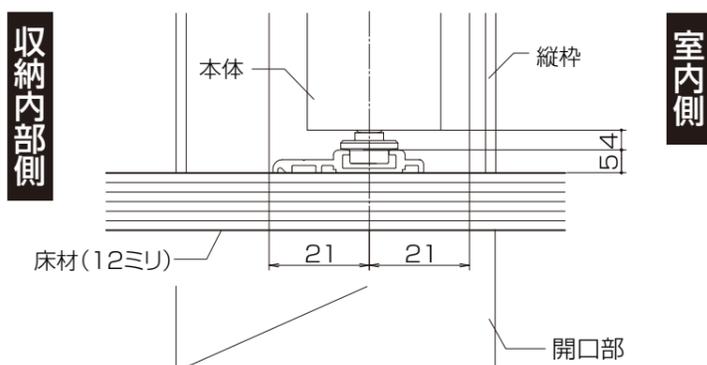
- 床材間に埋込下枠が入りますので、縦枠切欠き部の左右 11mm 内側の位置に20mmあけて、床材を張ってください。
- ※床材の間口寸法(20mm)が大きすぎたり狭すぎると、床のすき間が見えたり埋込下枠が入りにくい原因となります。



#### ■床載せ納まり

#### 【フラット下レールを使用する場合】

- 床材を張ってから枠を取付けてください。
- ※床材をあけて張る必要はありません。



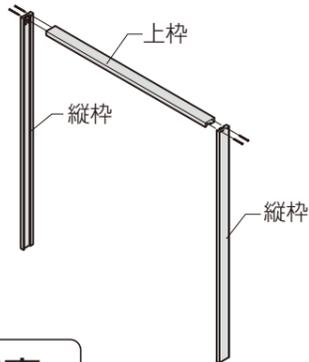
■ 施工のながれ

…お願い…

- ※本製品の上枠は天井のふところに納まります。枠を躯体に取付けた後に、天井ボードの施工を行ってください。
- ※本製品は床材の上に納まる仕様です。
- ※縦枠下端はカットしないでください。本体を吊込めなくなります。

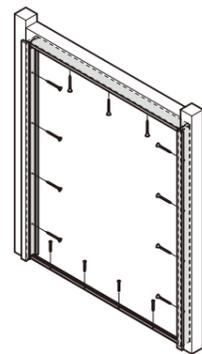
1 枠の組立て

▶ 5/12 ページ

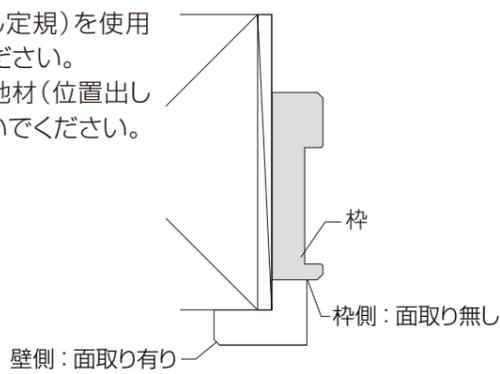


2 枠の固定

▶ 5/12 ページ



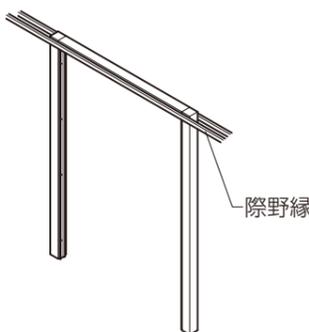
※クロス下地材(位置出し定規)を使用し、枠の位置を出してください。  
 ※この時点ではクロス下地材(位置出し定規)は、まだ固定しないでください。



建築工事

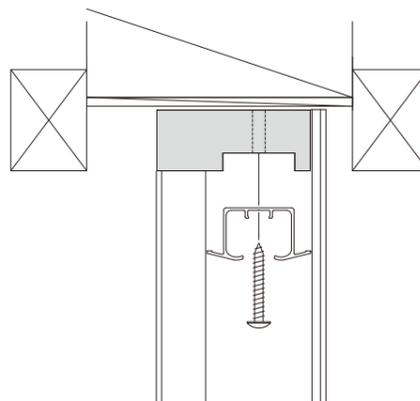
3 際野縁の施工

▶ 7/12 ページ



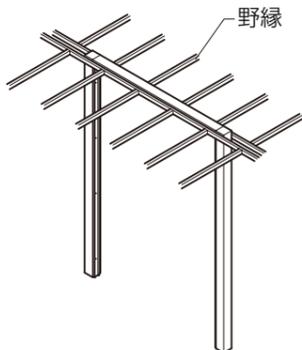
4 上レールの取付け

▶ 7/12 ページ



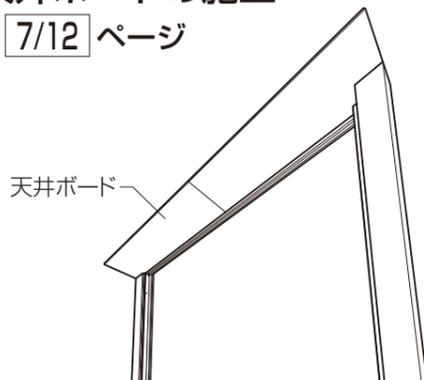
5 野縁の施工

▶ 7/12 ページ

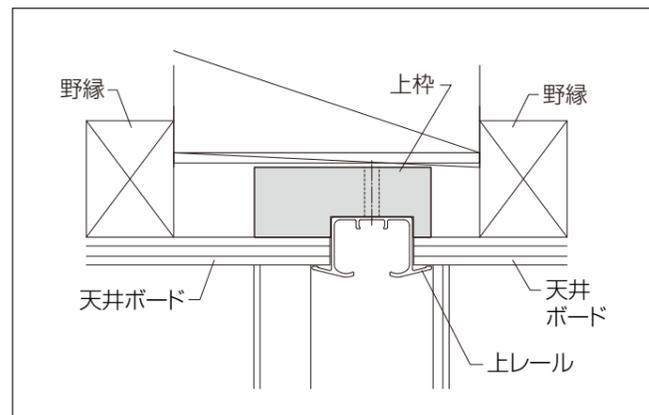


6 天井ボードの施工

▶ 7/12 ページ

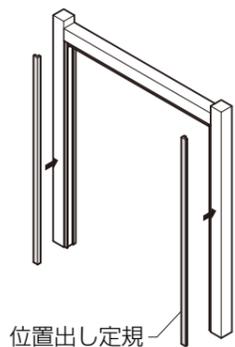


※天井ボード厚9.5mmを標準仕様としています。



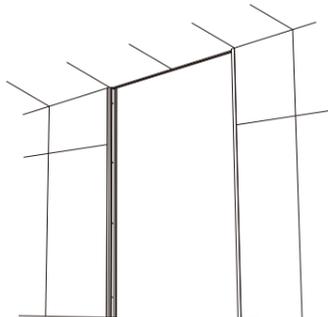
7 クロス下地材の取付け

▶ 7/12 ページ



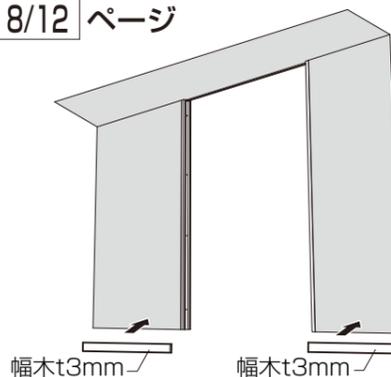
8 壁面ボードの施工

▶ 8/12 ページ



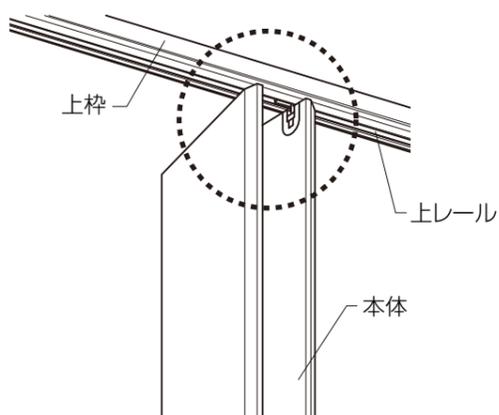
9 クロス、幅木の取付け

▶ 8/12 ページ



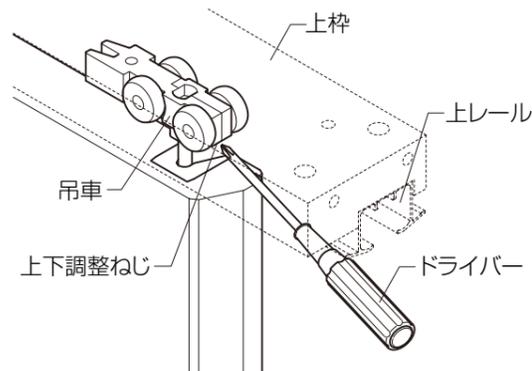
10 本体の吊込み

▶ 8/12 ページ



11 本体の調整

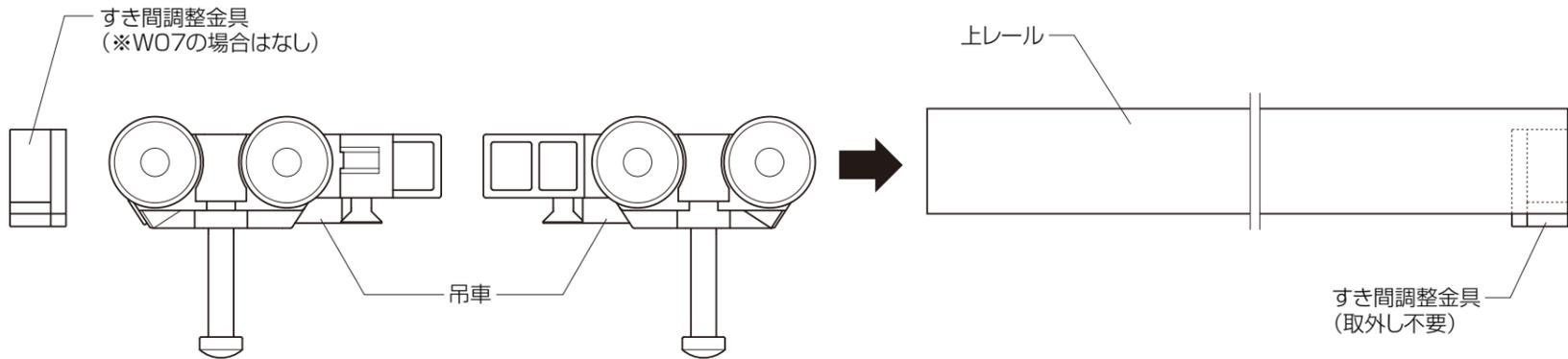
▶ 10/12 ページ



## ■取付け順序

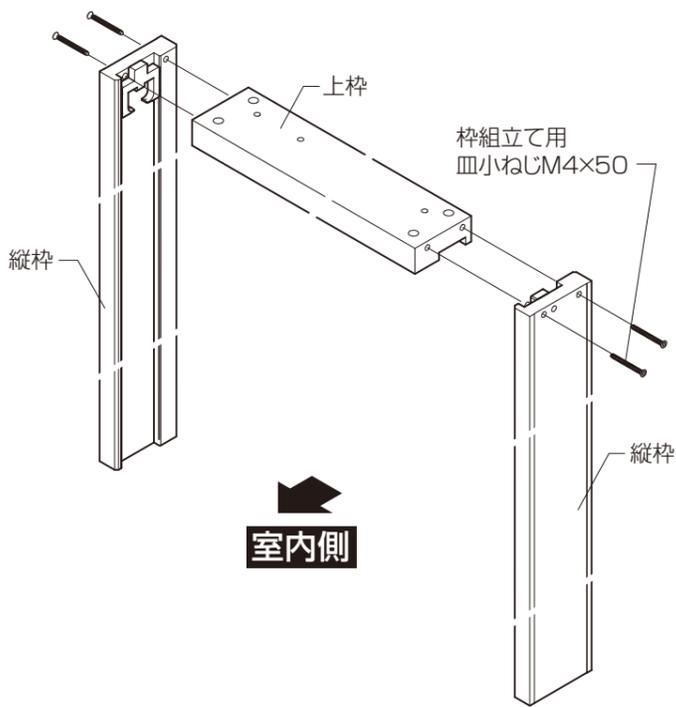
### 1 枠の組立て

- ①上レール端部(左右)に付いているすき間調整金具を片側のみ取り外し、吊車を互い違いの向きにして上レールに入れてください。  
 ※W07の場合は片側にしかすき間調整金具が付いていないため、取外す必要はありません。  
 ②吊車を上レールに入れ終わったら、すき間調整金具を元通りに取付けてください。



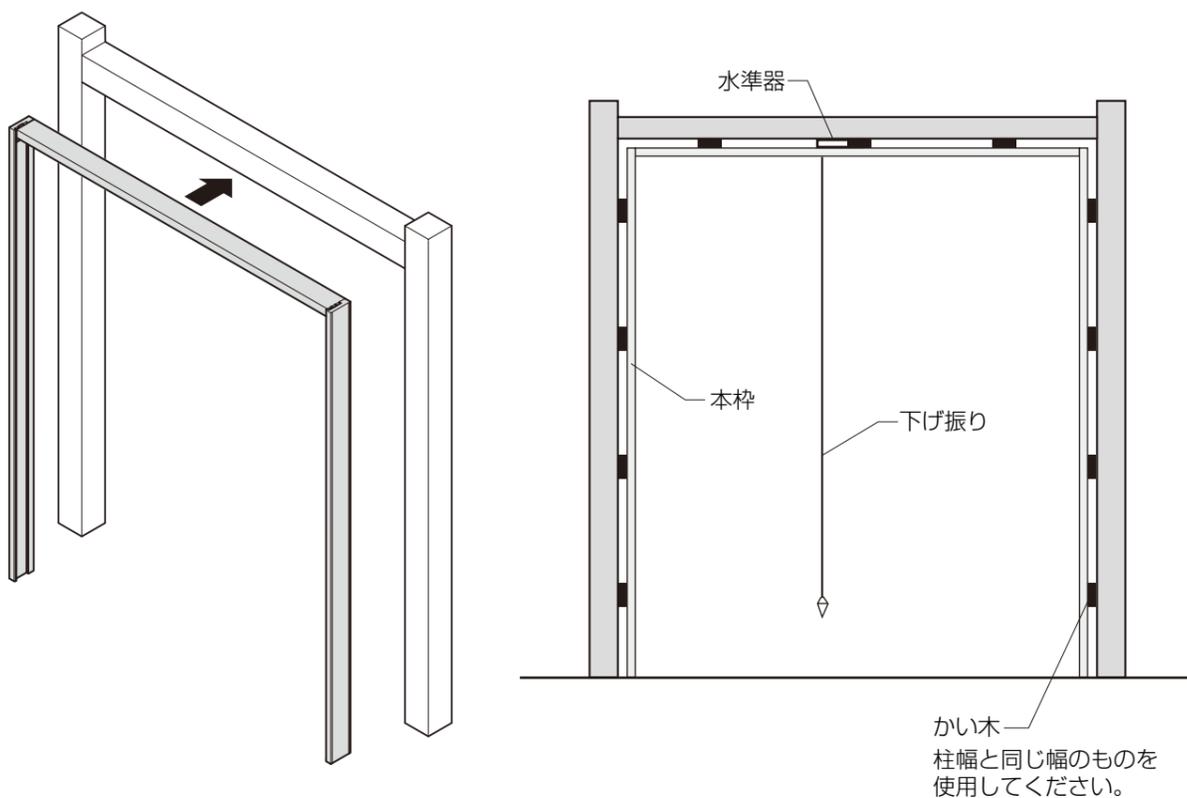
**吊車を互い違いに入れる**

お願い  
 ※枠組立て前に上レールに吊車を挿入してください。吊車の入れ方を間違えると本体の吊込みおよび、建付け調整ができません。

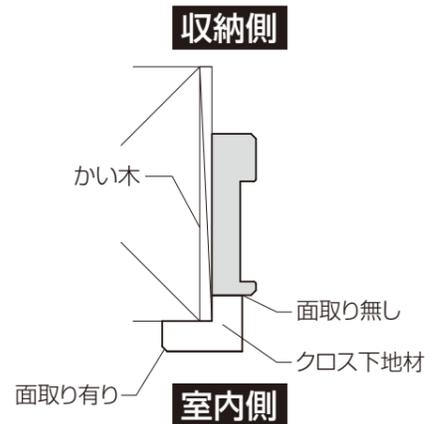


### 2 枠の固定

- 下げ振り・水準器などを使用して垂直・水平・開口幅などの確認と調整をしてください。

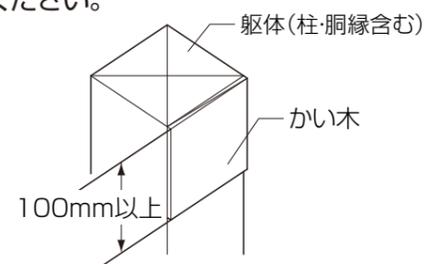


お願い  
 ※クロス下地材(位置決め定規)をあてがい、枠位置を決めてください。



※両入隅納まり時は位置出し定規は使用しません。

お願い  
 ※かい木は躯体(柱・胴縁含む)と同じ幅のものを使用して、木工用ボンドで接着してください。

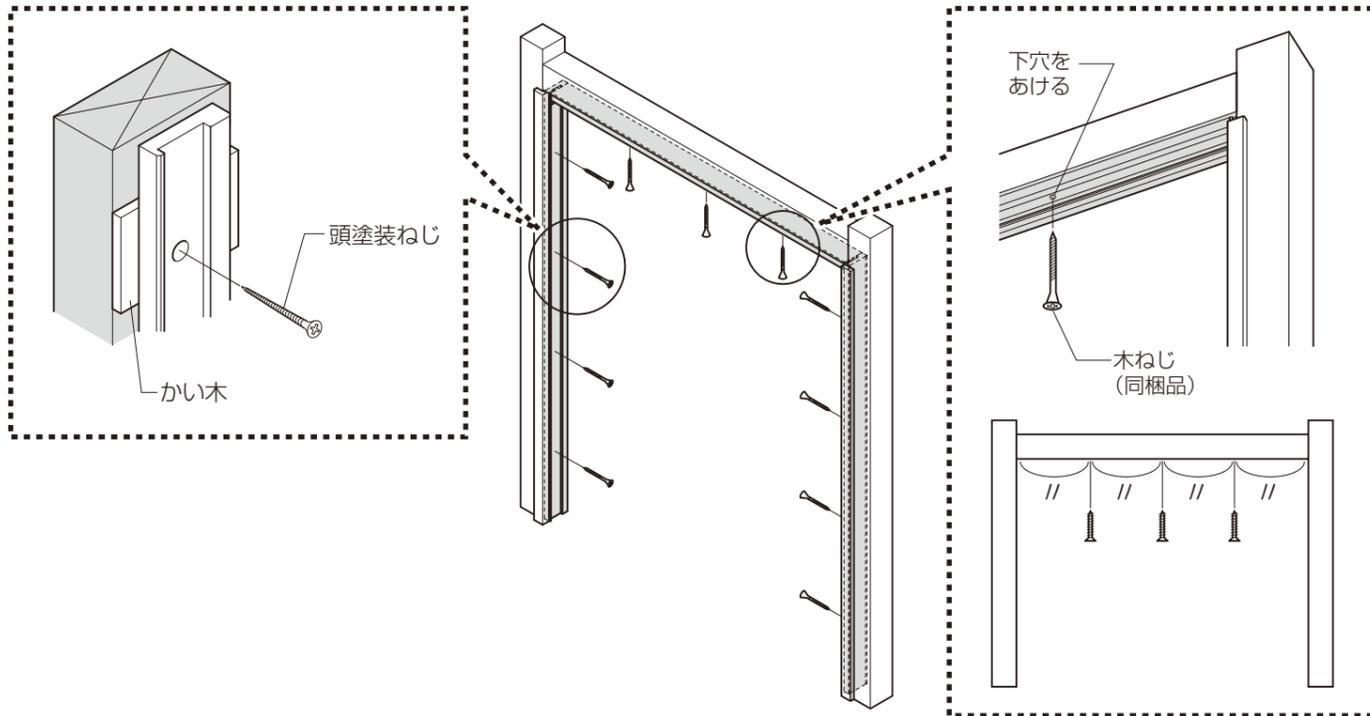


## ■縦枠部の固定

縦枠の加工済の下穴に頭塗装ねじ(同梱品)で締め付けてください。

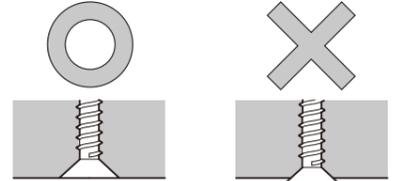
## ■上枠部の仮固定

上枠に下穴をあけて、鴨居を四等分して、木ねじ(同梱品)3本で締め付けてください。



お願い

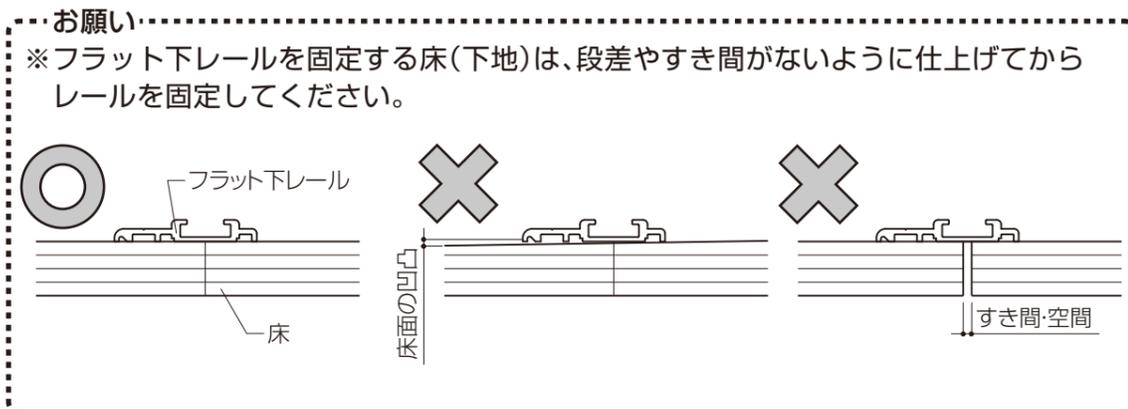
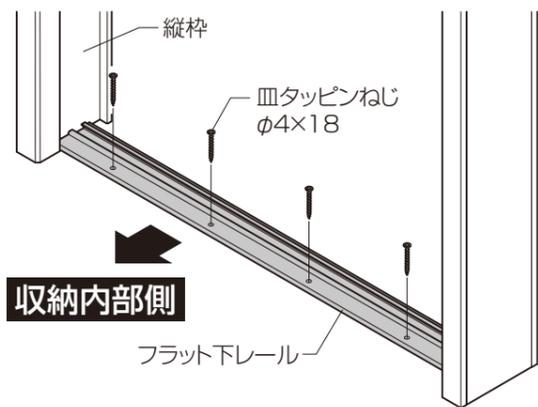
- 必ず同梱のねじを使用して施工してください。
- 上枠を固定する際、割れるおそれがありますので必ず下穴をあけてください。
- 穴のあいているところは、避けてください。
- 皿ビスが面から飛び出ないように取付けてください。



## ■下枠部の固定

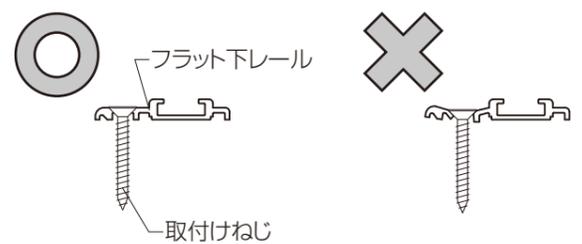
### 【フラット下レールを使用する場合】

①フラット下レールをねじ(皿タッピンねじφ4×18)で固定します。



お願い

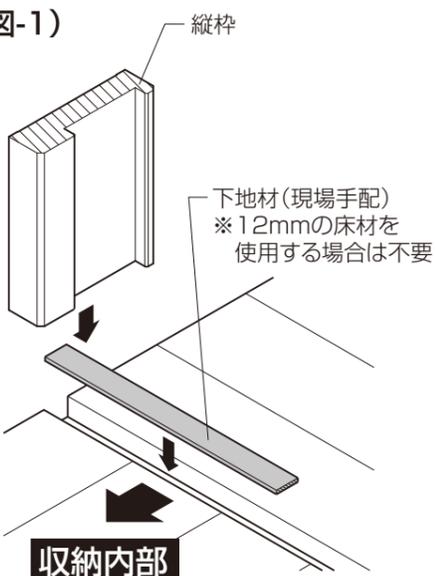
- ※フラット下レールを取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。フラット下レールが変形し、本体開閉不具合の原因となります。



### 【埋込下枠を使用する場合】

①(15mmの床材を使用する場合)下地調整材を床の開口部に取付けてください。(図-1)

(図-1)



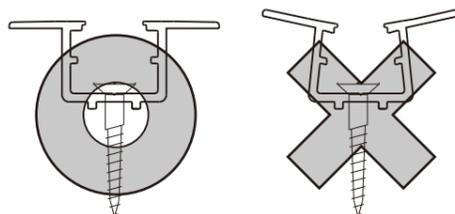
②端部ピースを埋込下枠両端部に取付けた状態で床に埋込みます。(図-2)

このとき、(図-3)のように縦枠の段差部にピースをあてて、位置決めをします。

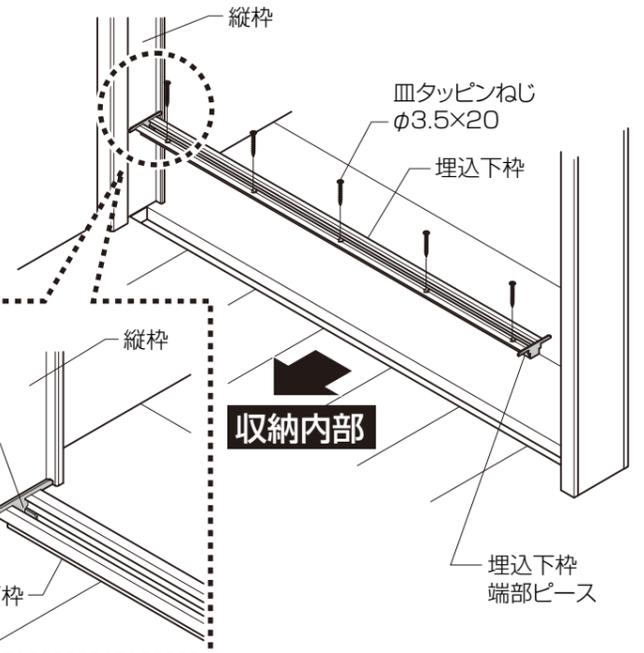
③埋込下枠をねじ(皿タッピンねじφ3.5×20)で固定します。

●埋込下枠取付け上のおお願い

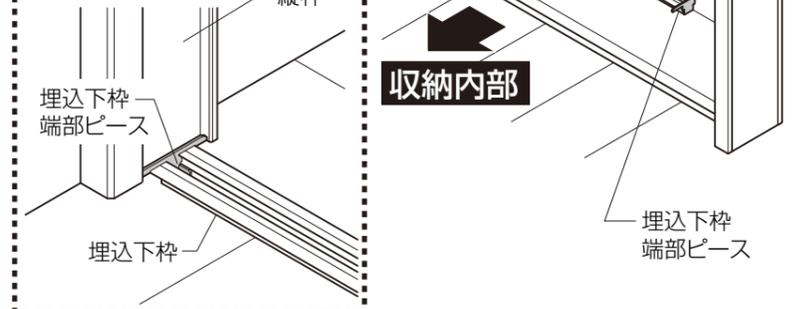
- ※埋込下枠取付けねじの締めすぎにご注意ください。埋込下枠を変形させると本体の開閉不具合につながります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。



(図-2)

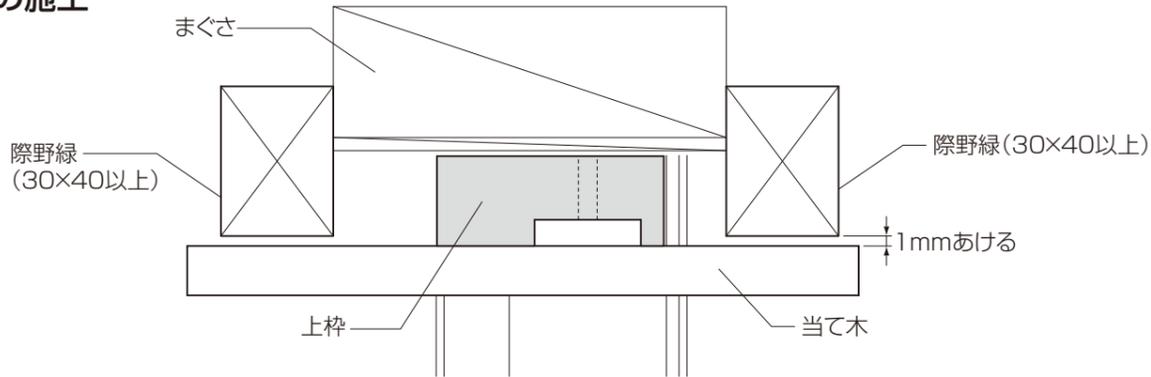


(図-3)



## 建築工事

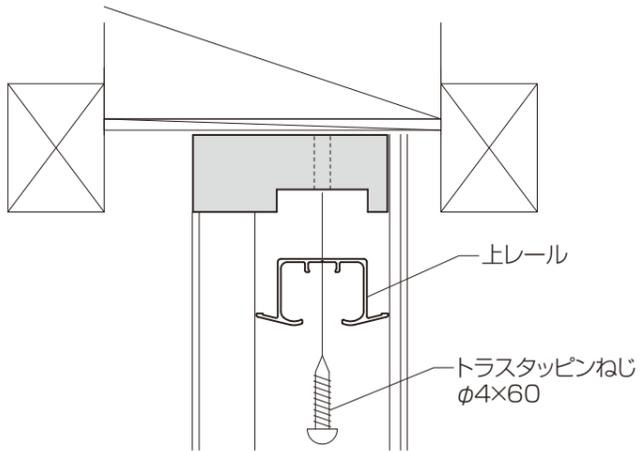
### 3 際野縁の施工



当て木などを使い、上枠面よりも1mm程度高い位置に際野縁を取付けてください。

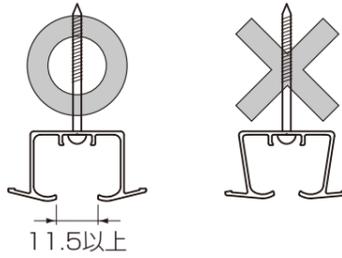
### 4 上レールの取付け

上レールと、上枠の下穴位置が合っていることを確認し、トラスタッピンねじ(φ4×60)で固定してください。



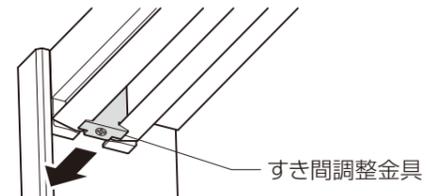
お願い

※上枠取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の開閉不具合につながります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。



お願い

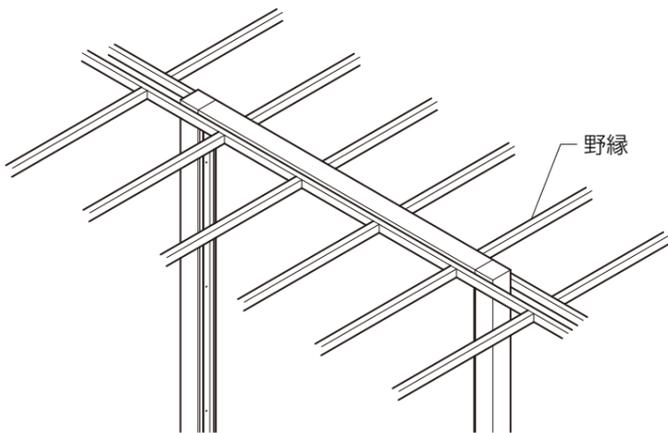
※上レール固定後、端部のすき間調整金具位置をずらし縦枠に当ててください。



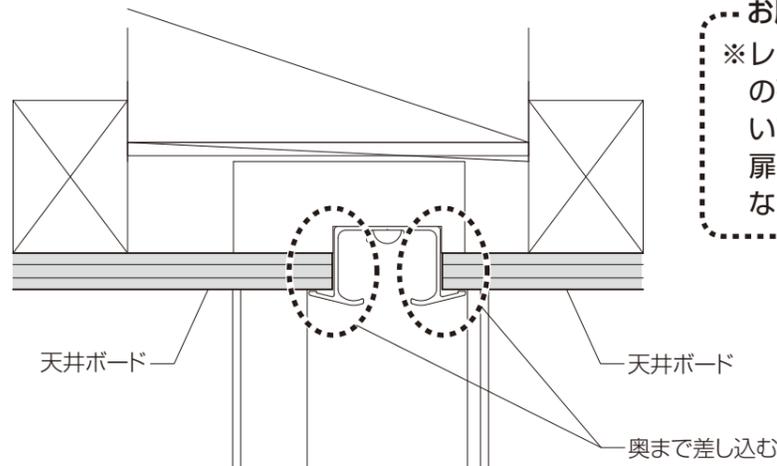
動きにくい場合は当て木をし、軽くたたいて動かしてください。

## 建築工事

### 5 野縁の施工



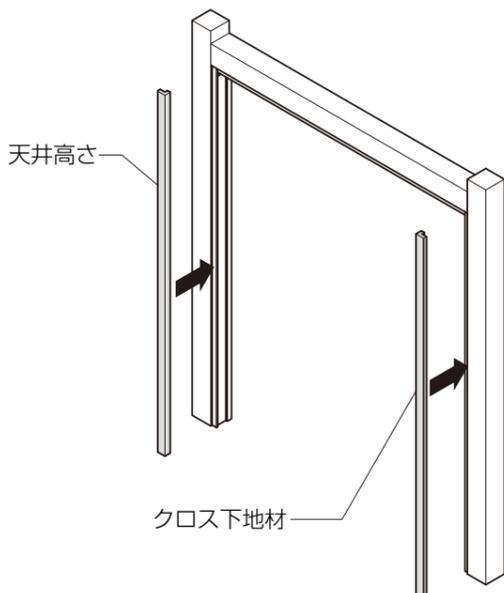
### 6 天井ボードの施工



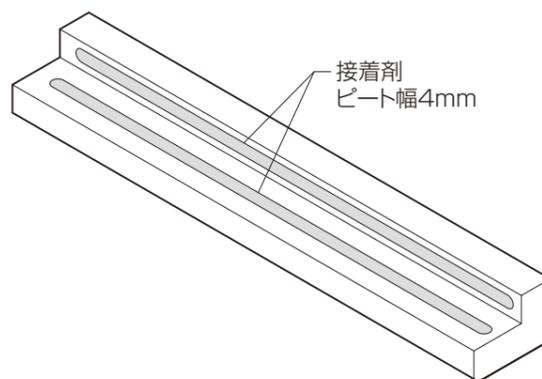
お願い

※レールが変形するほどの強い力で突き当てないでください。扉開閉不良の原因につながります。

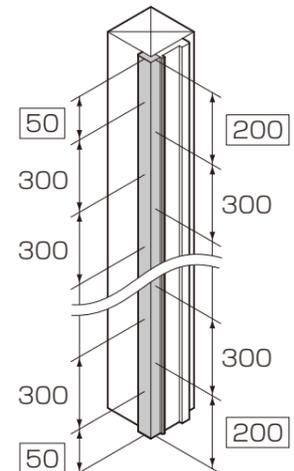
### 7 クロス下地材の取付け ※両入隅納まり時は不要



①クロス下地材に酢ビ系接着剤を塗布します。



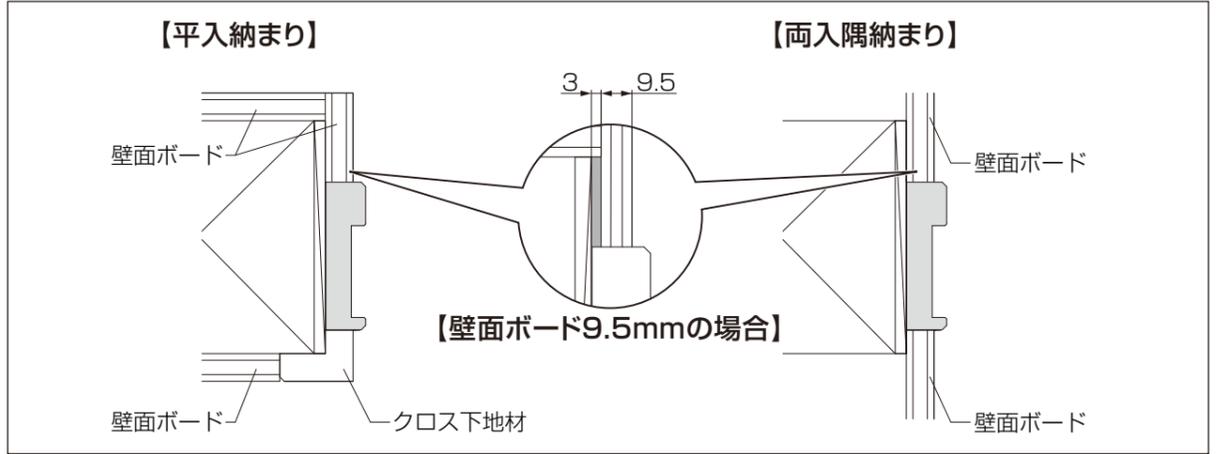
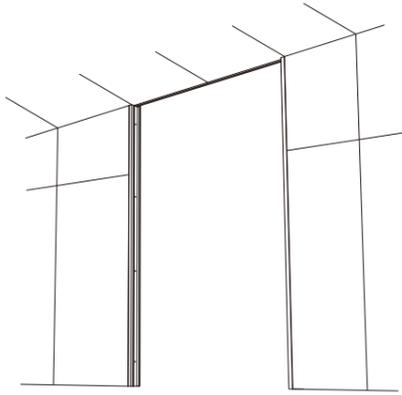
②タッカー、かくし釘を使用し下図ピッチで固定してください。



※天井下地材は天井高さにカットして使用してください。

## 建築工事

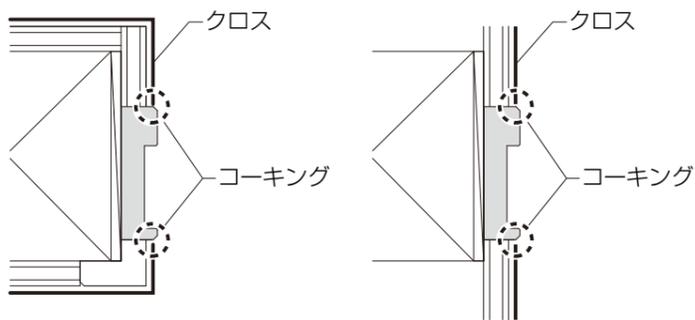
### 8 壁面ボードの施工



### 9 クロス、幅木の施工

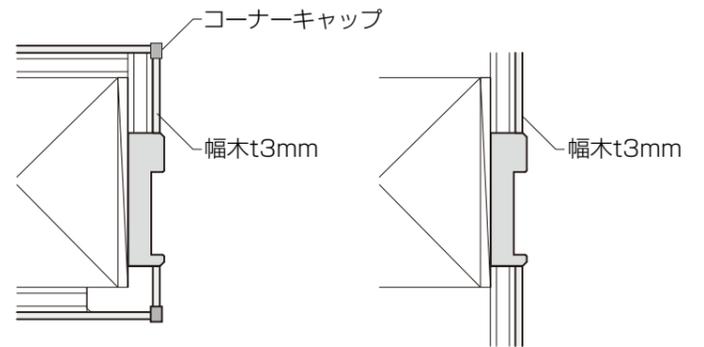
クロス⇒幅木の順で取付けてください。

#### ●クロス張り



#### ●幅木取付け

ソフト幅木用接着剤 (ビニル共重合系溶剤系接着剤) を使用し取付けてください。  
※幅木はクロスの上  
に取付けてください。

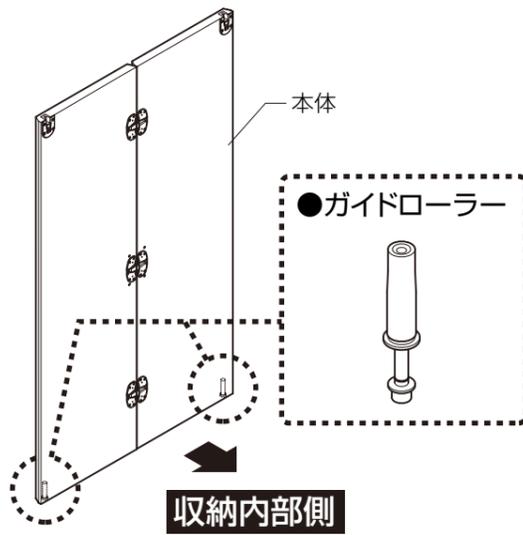
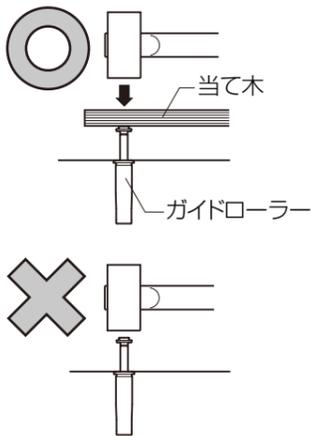


### 10 本体の吊込み

①ガイドローラーを本体下部の加工穴に圧入します。

お願い

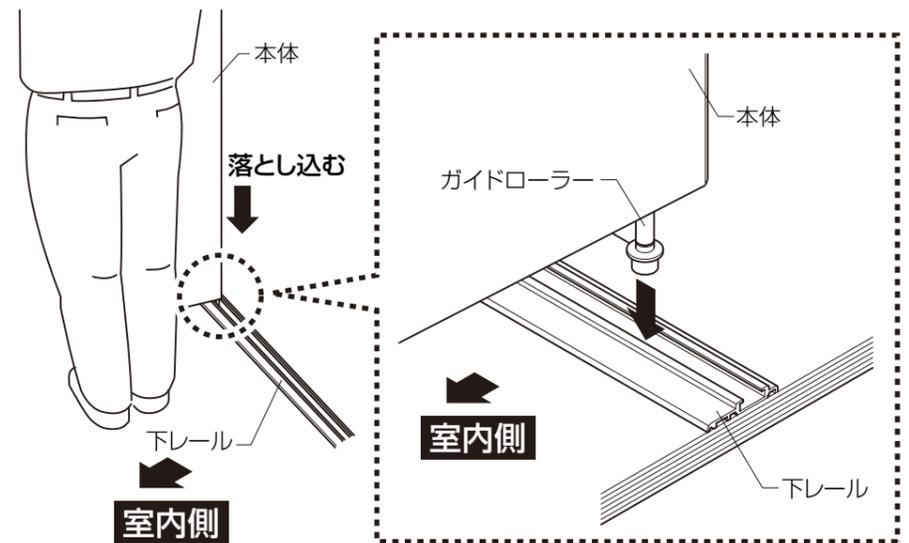
※ガイドローラーを圧入する際は、樹脂部当て木を使用してください。



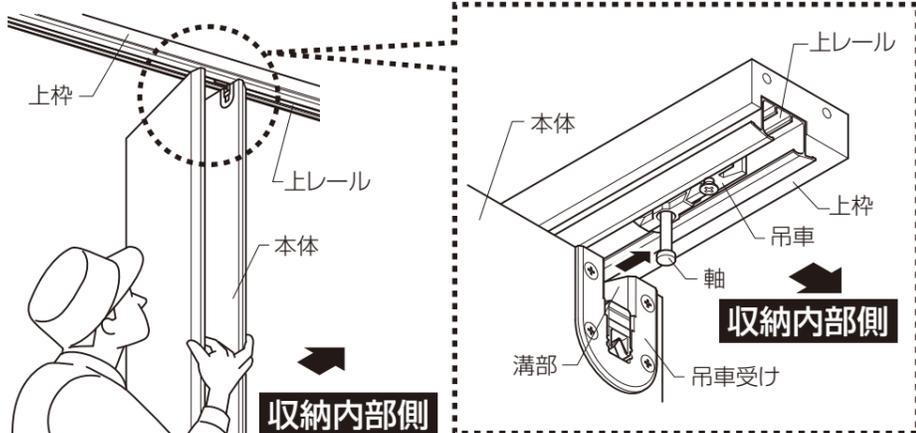
②ガイドローラーを下レールへ落とし込みます。

お願い

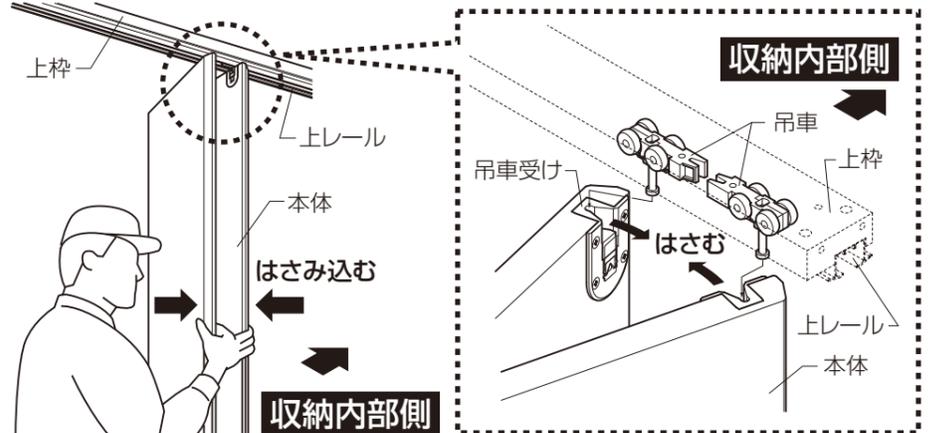
※ガイドローラーが下レールに入っていることを確認してください。  
※ガイドローラーで枠や床面などにキズを付けないようにしてください。



③本体上部の吊車受けの溝部に、上レールに取付けた吊車の軸を差込みます。



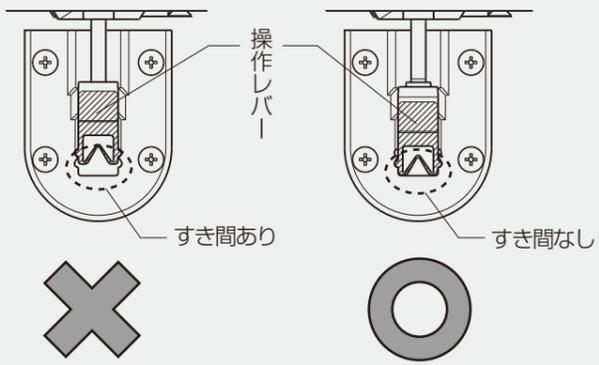
④本体で左右からはさみ込むようにします。



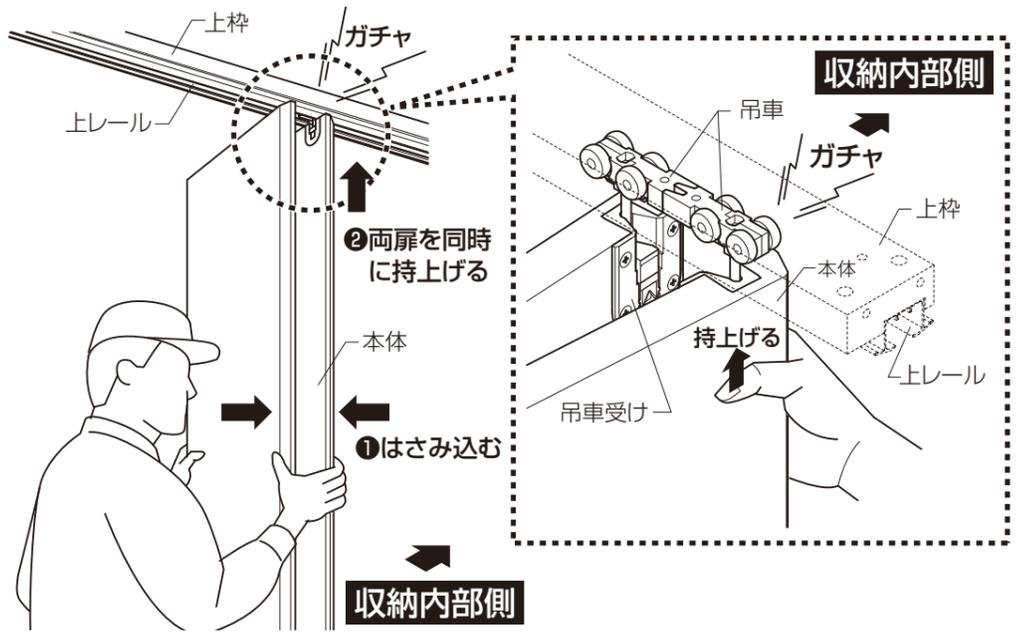
⑤本体をはさみ込んだまま、「ガチャ」と音がするまで上に持上げてください。吊車受けと吊車の軸が固定されます。

**▲ 注意**

●吊込み後、本体をゆすって外れないことを確認してください。吊込みが完了していないと本体が落下するおそれがあります。

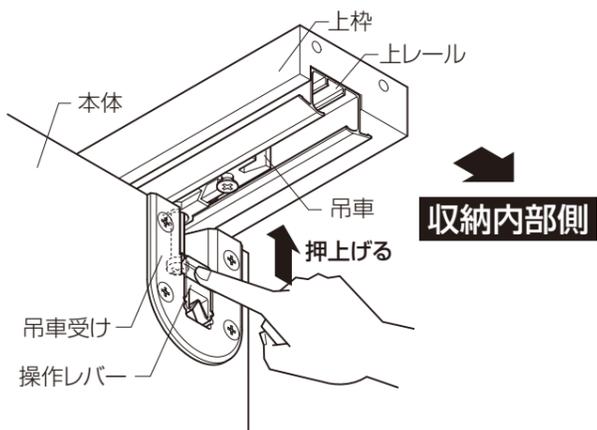


※吊込み完了は、操作レバーが下に下がっている状態です。(すき間なし)

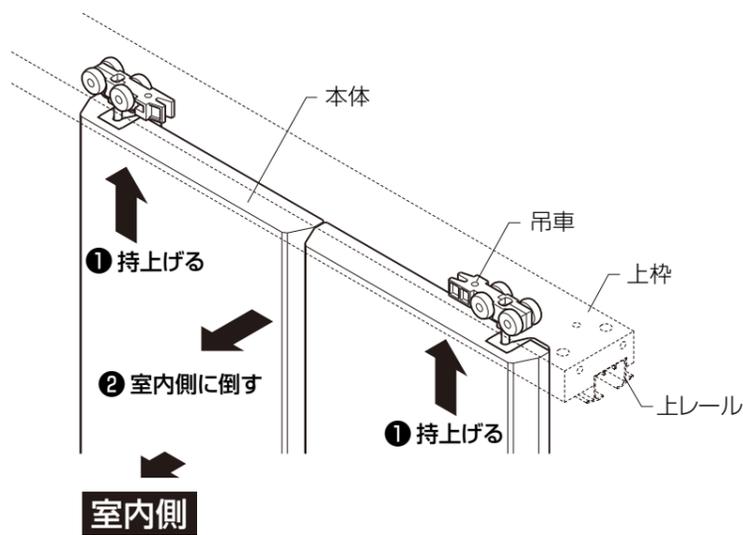


**■本体の外し方**

①本体上部の吊車受けの操作レバーを、固定されるまで動かしてください。



②本体を開いた状態で、本体を上を持ちながら室内側に倒してください。吊車の軸が吊車受けから抜け、本体が外れます。



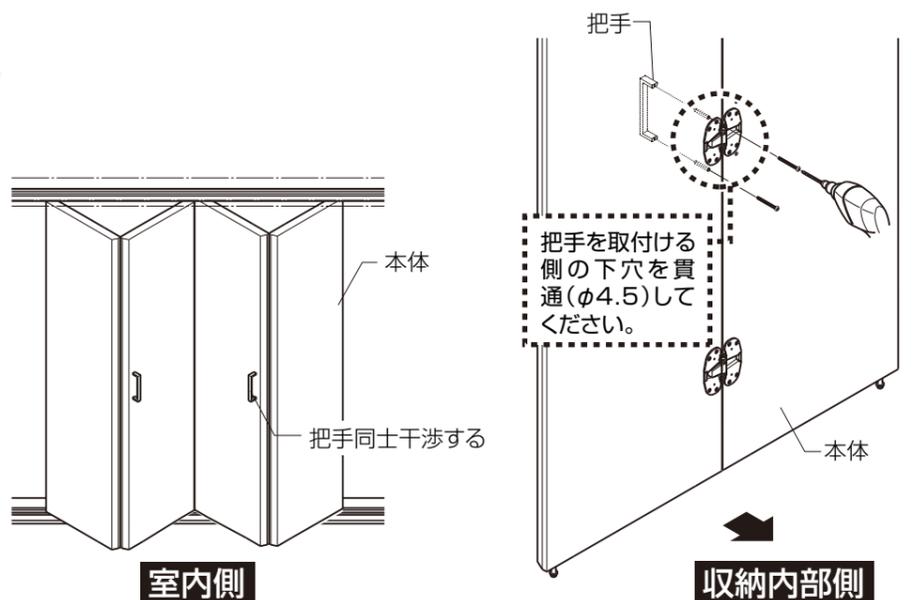
**■把手の取付け**

※2枚の本体の裏面に把手取付け用の下穴が中間位置まであけてあります。  
把手を取付ける側の本体の下穴を貫通(φ4.5)してください。  
下穴をあける際には、本体裏側にあて木をし、バリがでないようにしてください。

**【把手レスデザインの場合】**  
※把手の取付けはありません。

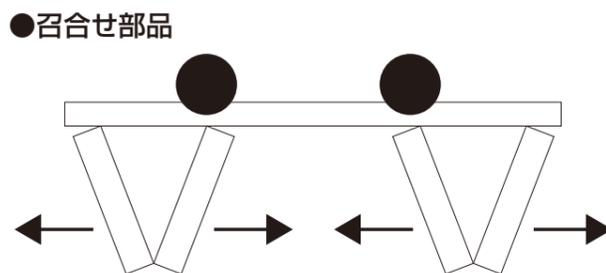
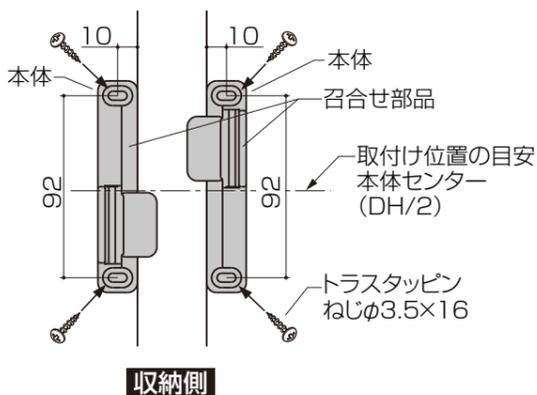
**【把手の位置について】**

●把手取付け時のお願い  
※フリータイプの際に本体を折った状態で、向かい合わせになる本体をそれぞれに把手を取付けると、把手同士が干渉してキズが付くおそれがあります。



## ■ 本体召合せ部品の取付け

※ 本体中央部に召合せ部品を取付けます。図の取付け寸法を目安とし、下穴(φ2.5×16)をあけ同梱のねじにて取付けてください。



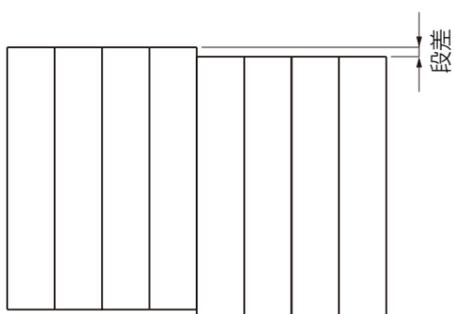
お願い  
※ 中央部の取付け位置は、隣り合う本体の段差が、目立つ位置に取付けてください。

## ■ 本体の調整

※ 本体の段違い(上・下)を調整します。

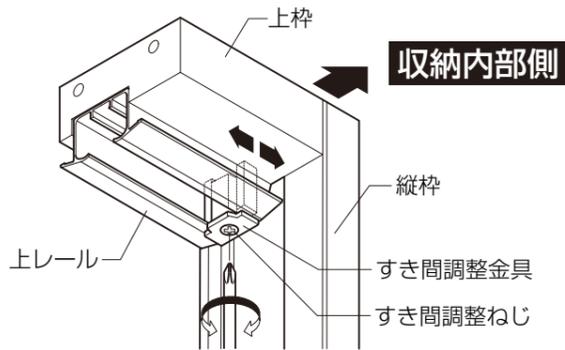
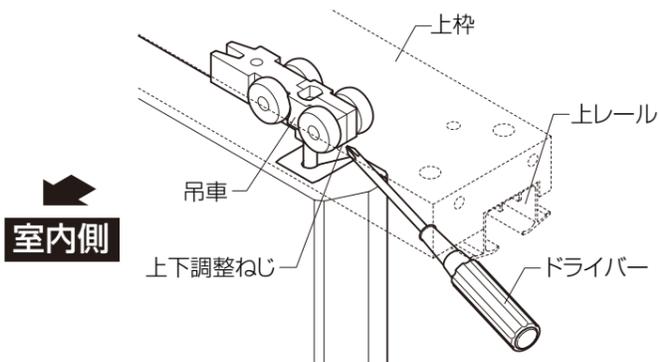
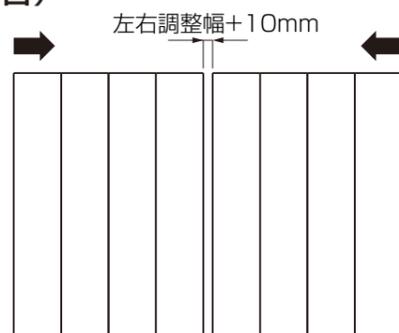
### 【段違い(上・下)の調整】

- 本体の取付け後、上下の目地が合っていない場合、左右の吊車の上下調整ねじをドライバーで回し調整してください。  
(上下調整量+6mm -0mm)



### 【すき間(左・右)の調整】(フリータイプの場合)

- 本体間のすき間が大きい場合、上レールの端部(左右)に付いているすき間調整金具で調整できます。  
すき間調整ねじをドライバーで回し、調整してください。すき間調整ねじを右に回すと、すき間が小さくなります。  
注) すき間調整金具は、上レールの左右に付いています(W07は、片側のみ)ので、左右均等に調整してください。

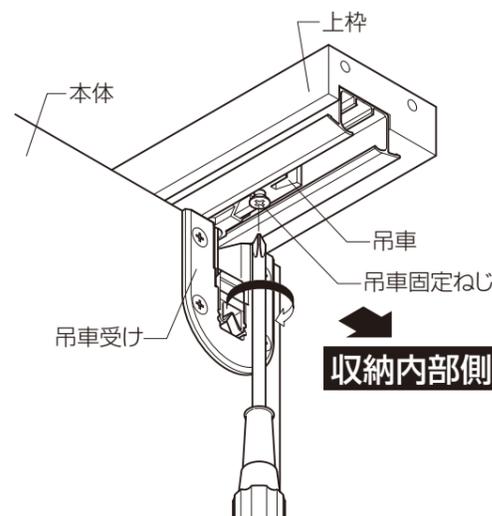
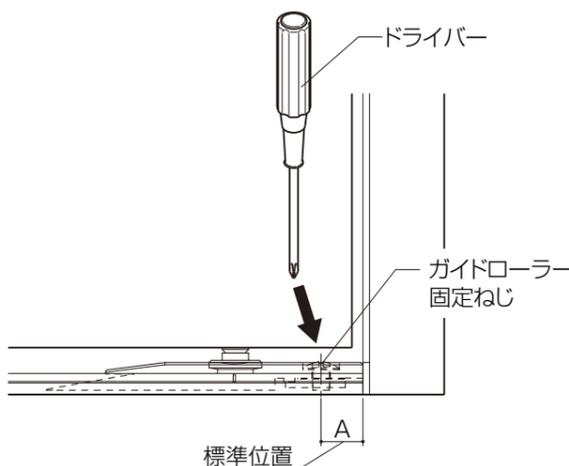
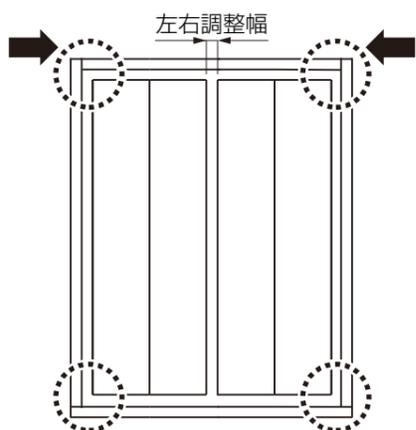


### 【すき間(左・右)の調整】(ピボットタイプの場合)

- ガイドローラー固定金具(本体用部品セット同梱)の取付け方法は【フリー→ピボットの変更】を参照してください。
- 本体間のすき間が大きい場合、吊車及びガイドローラー固定金具で左右調整を行います。

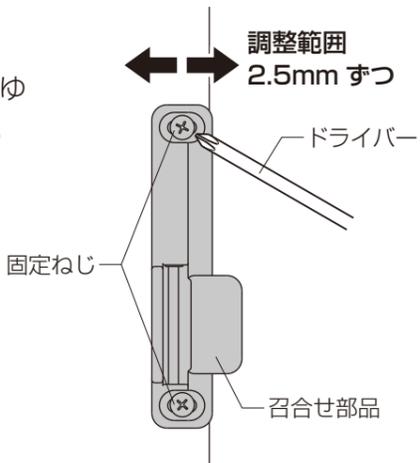
- 本体をずらしてガイドローラー固定金具の固定ねじをプラスドライバーでゆるめて移動させます。

- 吊車固定ねじをドライバーでゆるめて移動させます。



### 【召合せ部品の調整】

- 固定ねじをドライバーでゆるめて調整してください。

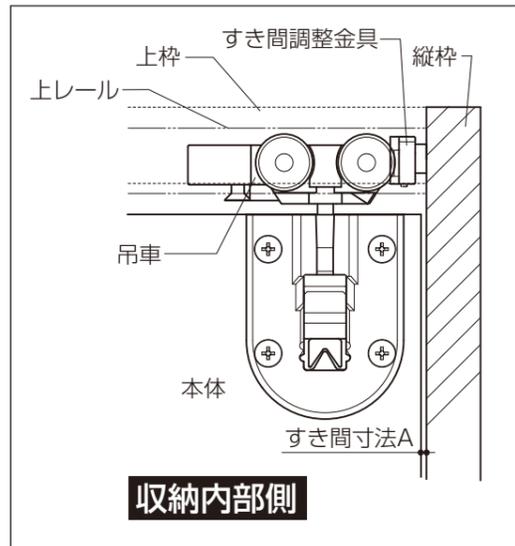


## 【フリー→ピボットの変更】

### ●本体上部の固定

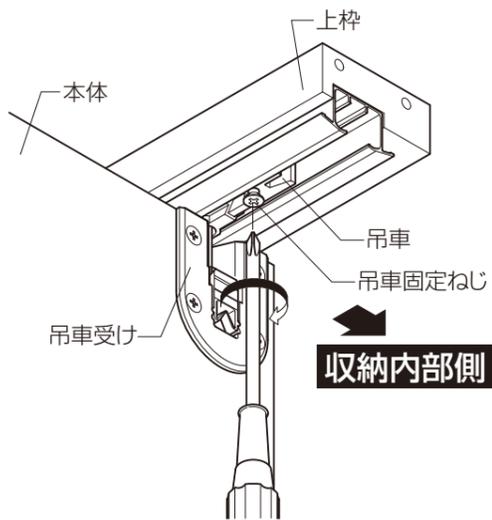
- ①本体をピボットにしたい位置まで移動させます。
- ②固定したい本体側の上部吊車に付いている“吊車固定ねじ”を回し、吊車が固定されるまでねじを回します。
- ③本体を左右にゆすって本体が固定されたかどうかを確認します。

	すき間寸法A(mm)
本体1Pの時(W07)	3.5
本体2Pの時(W12,16,24)	4



## 【ピボット→フリーの変更】

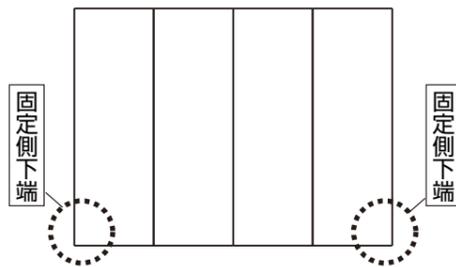
- ①吊車の吊車固定ねじを、ねじの回転が重くなるまでゆるめてください。緩める量が少ないと吊車の動きが悪くなり開閉不具合の原因となります。
- ②ガイドローラーをガイドローラー固定金具から外し、ガイドローラー固定金具の固定ねじを緩めてレールから外してください。この時、ガイドローラーは必ず下レールにはめ込んでください。



### ●本体下部の固定

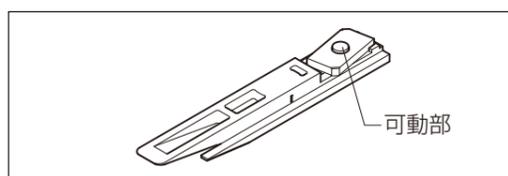
※ピボットタイプとして本体を使用する場合は、ガイドローラー固定金具(本体用部品セット同梱)を用いて本体固定側の下端を固定してください。

### ●本体2体固定の場合



- ①本体を正しい位置に移動させて、本体垂直がでているか確認します。
- ②ガイドローラー固定金具可動部を下図のように長手方向に向けます。

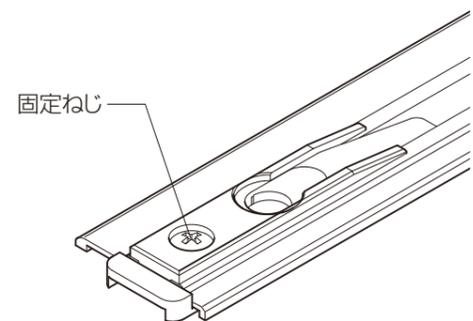
### ●ガイドローラー固定金具



### ●ガイドローラー固定金具使用数量

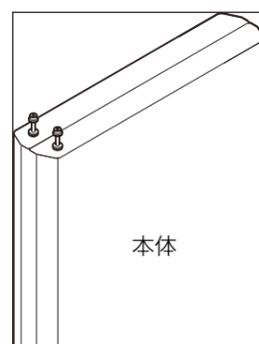
	数量
本体1体固定の場合	1個
本体2体固定の場合	2個

- ③ガイドローラー固定金具可動部を長手方向に保ったまま下レールに取付けます。固定ねじをプラスドライバーにて締め付けてください。

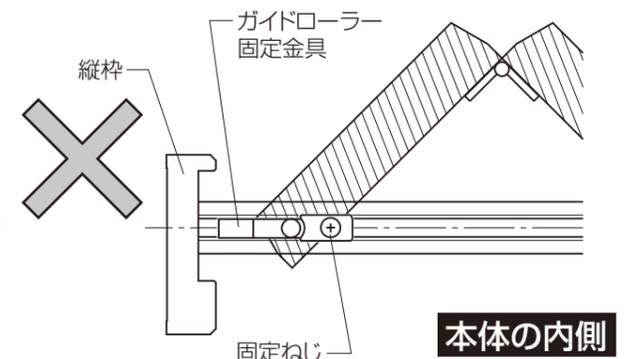
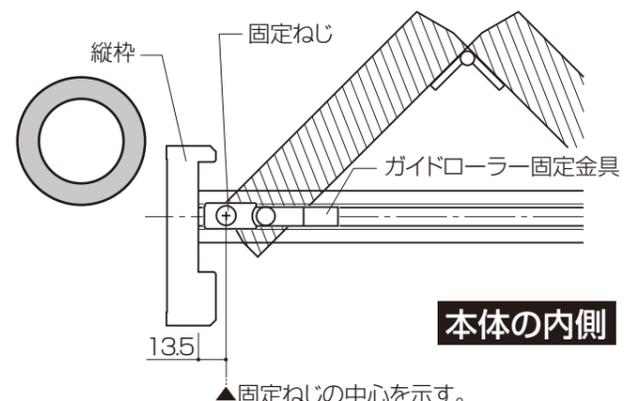
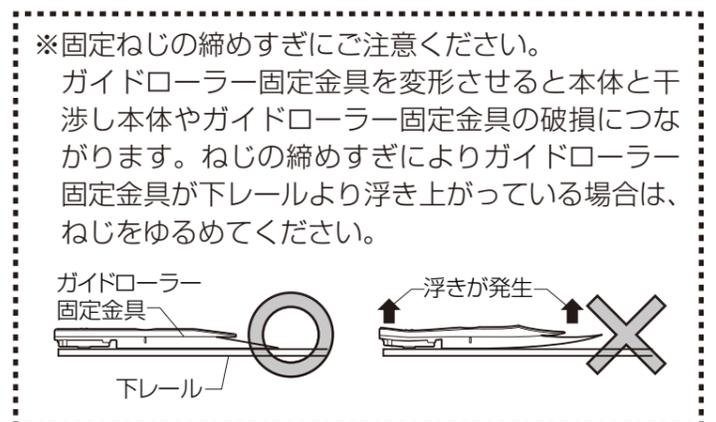
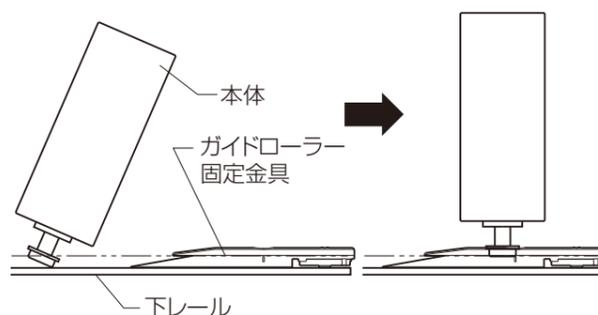


- ④本体のガイドローラーをガイドローラー固定金具に取付けます。

1. 下図のように本体をたたみます。
2. ガイドローラーがガイドローラー受けにはまる(「カチッ」と音がする)まで本体を立てます。
3. 別の本体も同じ手順で吊込んでください。



- ⑤ガイドローラー固定金具の取付け向きは、下図のように固定ねじが本体の外側になるよう、取付けてください。ガイドローラー固定金具の固定位置は、右図を参照してください。
- ⑥固定ねじをプラスドライバーで右に回します。ガイドローラー固定金具が動かないよう固定されたかどうか、確認してください。



■納まり図

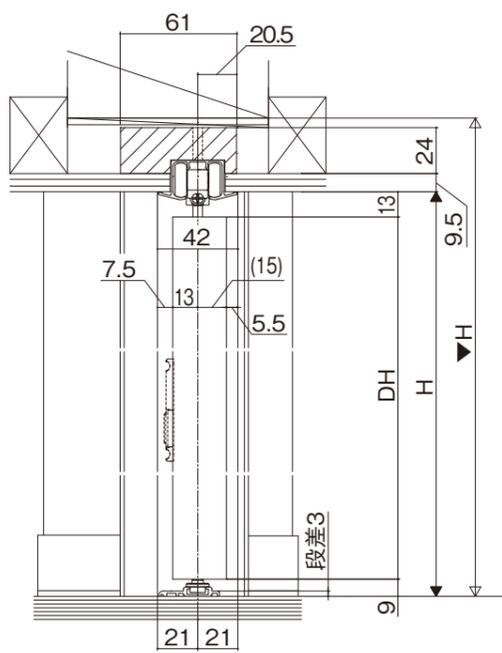
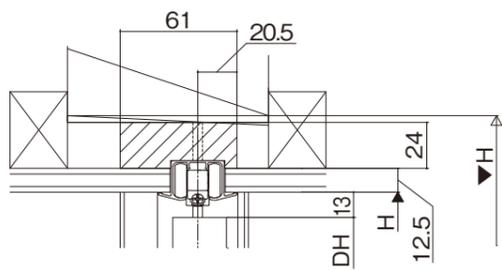
■クローゼット折れ戸ユニット

W呼称 (枠外寸)	W	SW	A	B
W07 (734)	734	703	578	322
W12 (1183)	1183	574	871	257.5
W16 (1643)	1643	804	1331	372.5
W24(2444)	2444	804	1994	372.5

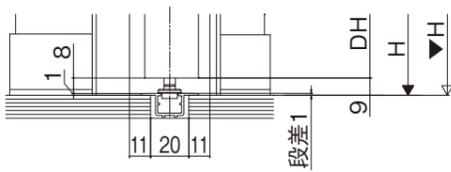
H呼称 (枠外寸)	H	DH
H24 (2433.5)	2400	2378

●縦断面図

【特注】12.5mmPB対応

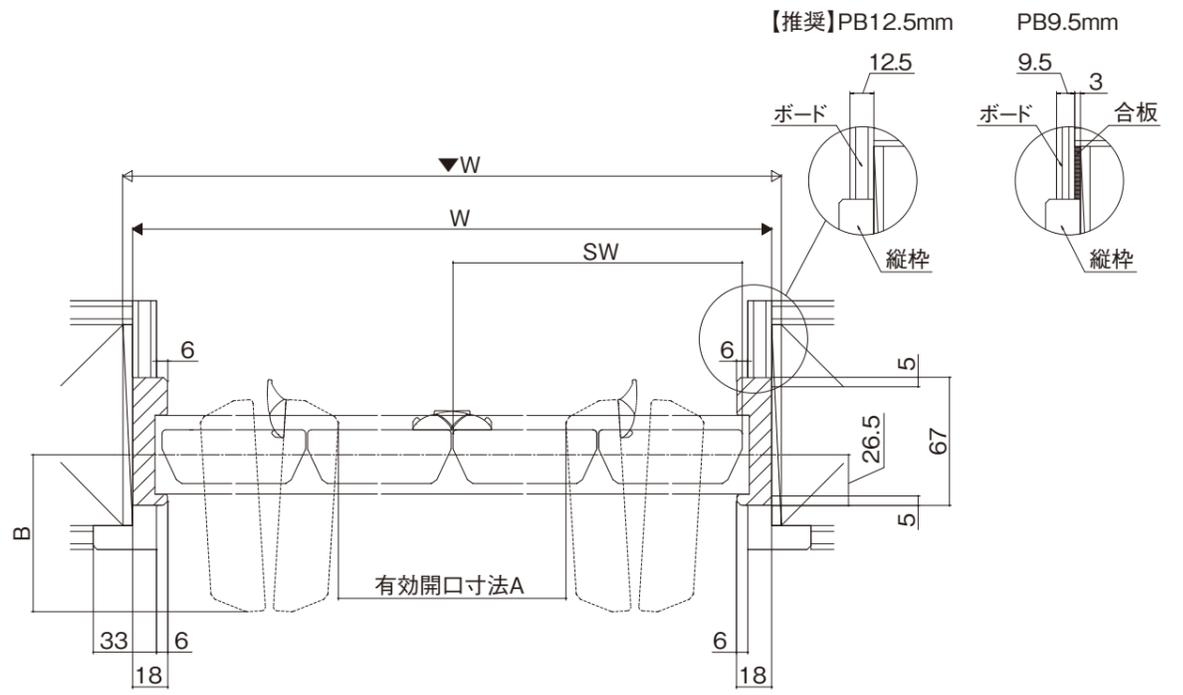


フラット下レール納まり

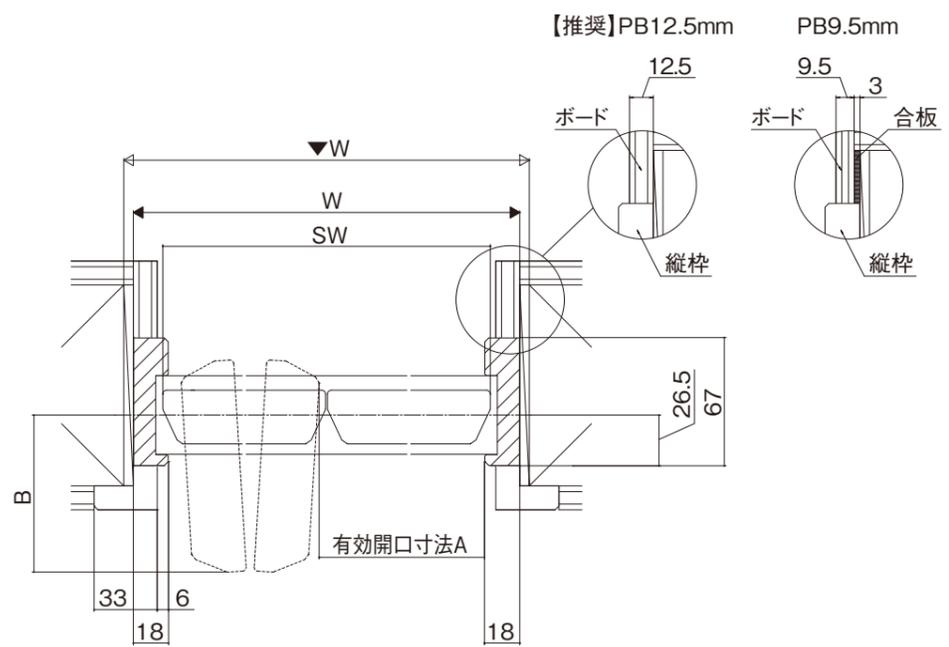


埋込下枠納まり

●横断面図



07以外：2P納まり



07：1P納まり